

ニュースレター

いりおもでの森から

林野庁 九州森林管理局
西表森林環境保全ふれあいセンター
平成21年11月発行 21号



コバノセンナ

JICAインドネシア研修生が来所

9月4日(金) JICAインドネシア研修生4名と、引率及び通訳2名の6名が研修のため来所し、当センター職員が沖縄県の概要、西表島の森林等について説明しました。その後、研修生と意見交換を行い、最後に研修生からインドネシアのマングローブ管理センターで実施している森林環境教育等についての説明がありました。

研修生一行はこの後、西表島に渡り、国際マングローブ生態系協会の案内により、島内の森林環境教育、エコツアー、自然保護等について実施研修を行うとのことでした。今回の研修が、帰国後、何らかの形で役立つことを祈念しています。



パネルを使った当センターの説明



JICA研修生からの説明



マングローブ管理施設
(インドネシア)

一橋大学院生及び静岡大学の学生が来所

9月1日(火) 一橋大学大学院生1名が修士論文作成のため、また、9月14日(月) 静岡大学の教授と学生13名が「地球生態科学論及びエコ・ポスト論特別演習」の一環として当センターに来所しました。

当センターからは、当センターの設立経緯及び業務内容並びに浦内川・仲間川のマングローブ林のモニタリング、ヒナイ川の入り込み調査、木道の設置と木道を利用したモニタリング及び森林環境教育など、当センターが実施している業務全般について説明し、質疑を受けました。西表島の自然保護のあり方、環境保全の取り組み、自然を活用した利用の実態等、説明が多岐に渡ったため時間が足りないほどでした。

一橋大学大学院生は、来年1月の修士論文の提出に向けて、作成に取り組むとのことでした。また、静岡大学の一行は、この後西表島にて、マングローブ林等におけるエコツアー体験、地球規模で問題となっている漂着ゴミの回収等の実習を体験する計画になっているとのことでした。



一橋大学院生への業務内容説明



静岡大学教授と学生一行

漂流・漂着ゴミの実態調査（8・9・10月分）

8月4日（火）、8月11日（火）の台風通過後、9月7日（月）及び10月6日（火）、西表島の国有林に面した海岸を対象にした漂流・漂着ゴミの実態調査（5地区6箇所の写真撮影）を行いました。

今回の調査では、台風8号の影響により南風見田地区は、強風により砂が陸地に打ち上げられ、幅約3m、深さ約1mの小川が埋められました。

ユチン地区では、発泡スチロール等の漂着ゴミが大きく移動し、撮影箇所の視界から見えなくなりましたが、全体としては漂着ゴミの量は変わらないようでした。

船浦地区（海中道路の外部）では、黒くて太いゴムホースが砂浜からマングローブ林内に大きく移動しました。

船浦地区（海中道路の内部）では、立木の枝に引っ掛かったビニール袋が確認されました。

美田良地区では、モクマオウが生育している箇所から2～3m先の砂浜が30cm程度洗掘され段差が生じていました。

台風8号は、西表島を直撃はしなかったものの、各調査地において変化が生じていました。

さらに、10月の調査では、台湾とフィリピンの間に台風17号が、沖縄本島の東方に台風18号があり、多量の高草が海岸線に漂着している箇所が見られました。また、マングローブ林内にも発泡スチロールの漂着物が確認されました。



見田良地区（8月台風前）



見田良地区（8月台風後）



大量に漂着した海藻類
（10月調査）

平成21年8月・9月期ヒナイ川、西田川の利用状況調査報告

ヒナイ川の利用状況調査（毎月1回）を8月12日（水）、9月11日（金）に、西田川の利用状況調査（2ヶ月に1回）を8月18日（火）にそれぞれ実施しました。

ヒナイ川では、8月期はカヌーツアーが29組（ガイド含め176名）、レンタルツアーが1組（1名）合計30組（177名）、9月期はカヌーツアー23組（ガイド含め127名）、レンタルツアー1組（2名）、トレッキングツアー1組（3名）計25組（132名）でした。

西田川では、カヌーツアーが3組（ガイド含め35名）でした。

八重山地方を暴風圏に巻き込んだ、大型で強い台風8号が通過し影響がなくなった8月期のヒナイ川では絶好の行楽日和となり、県外からの家族連れなどがたくさん訪れ本年最高の利用者数となりました。9月期もカヌー艇数が108艇と8月期に次ぐ賑わいでした。

また、8月期の西田川では、入り込み者が滝水に打たれたり、滝壺で泳いだりと、とても気持ちよさそうに楽しんでいました。



ヒナイ川の船着き場
（8月期）



西田川のサンガラの滝
（8月期）



ヒナイ川の船着き場
（9月期）

船浦ニッパヤシのモニタリングを実施

9月16日(水)、10月15日(木)に、国指定の天然記念物で、船浦に自生しているニッパヤシ(植物群落保護林内)の葉数及び葉長などのモニタリングを実施しました。

モニタリングの結果は、1株当たりの平均葉数は増加しましたが、葉長は微減する結果となりました。また、6月の調査時に35株の内約7割の株から新芽が出ていましたが、今回の調査では約8割の株から新芽が出ており、順調に生育しているものと思われます。

また、6ヶ月毎に実施している地盤高の調査について、平成17年4月調査開始時と比較し、川岸のポイント8の地点は14.5cmも地盤が下がっていました。また、内陸部のポイント2の地点は、毎回、地盤の高さが浮き沈みを繰り返しており、砂泥が移動していることが確認できました。



ニッパヤシの葉長調査



ニッパヤシの雄花



レベル測量による
地盤高調査

仲間川保全利用協定者が行うモニタリングを支援

9月30日(水)、仲間川地区保全利用協定の締結事業者が行う砂泥の移動、ヒルギ類の幼木の成長についてモニタリング調査の支援を行いました。

8月に台風8号の暴風域が西表島を通過したこともあり、調査箇所の被害を懸念されましたが、杭の流出、杭間に張った水系の切断も見られず安堵しました。

砂泥の移動結果は、前回と比較し大きな変化は見られませんでした。

幼木の成長調査の結果は、樹高、葉の枚数とも増加しており、台風の影響を受けることなく、良好な生育をしていました。



レベル測量による
砂泥の移動調査

浦内川マングローブ林のモニタリングを実施

10月2日(金)、5日(月)及び20日(火)、浦内川マングローブ林の成長量を把握するため樹高、胸高直径等を調査しました。

この調査は、平成17年度より実施していますが、台風等の影響により河岸部が洗掘され、マングローブの倒伏による枯損が年々増えていることから、今回はコドラート内の地盤高の測定を新たに追加し、マングローブ林内の砂泥の移動状況も調査することとしました。

また、今回の調査で特に目立ったのは、オヒルギの稚樹の発生量の多さでした。調査区で昨年の約28倍、調査区では約4倍の稚樹の定着が確認されたことから、これらの調査箇所でのマングローブ林の推移が今後どのようになっていくのが気になるところです。

調査結果については、「浦内川マングローブ林の隆替状況」として今年度中にホームページ等に掲載し報告する予定にしています。



オヒルギの膝根の間から発
生しているオヒルギの稚樹



マングローブ林内
の成長量調査

西表島の樹木

今回は、西表島の海岸林などに生育している植物を紹介します。

ヤエヤマアオキ（アカネ科ヤエヤマアオキ属）

学名：*Morinda citrifolia*

分布 / 琉球、小笠原諸島、台湾、東南アジア、インド、太平洋諸島に広く分布

生育環境・形態など

海岸林などでやや湿った林縁に生える、高さ1.5～5m程度の常緑の低木、または小高木。葉は対生し、革質で厚く、長さ10～25cm、幅5～13cmと大きい。オオバイヌビワによく似ているが、若枝が四角形、花びらがあるなどで区別がつく。枝先に頭状花序を1個つける。果実は液質で柔らかく、卵状で長さ4～5cmの大きさ、熟すと緑白色から白色になる。食用とあるが、果実のままでは苦い、渋いで美味しくない。1年に4回程度開花結実する。

ハワイの現地語である「ノニ」が近年の健康ブームでよく知られ、ジュース加工されて販売されている。



樹形：2009.0718（大原港）



花：2009.1022（大原港）



果実：2007.0727（大原港）

「西表森林環境シンポジウム」開催日変更のお知らせ

10月24日（土）の午後から開催を予定していましたが「西表森林環境シンポジウム」については、台風20号の影響により、中止となりました。

開催を楽しみにしておられた関係者や、一般参加者の皆様には大変ご迷惑をお掛けしたことをお詫び申し上げます。

なお、今後の開催要望もあることから、関係者等との日程調整を図り、今年度中に開催することとしております。

つきましては、開催日が決定次第ご連絡することとしていますので、関係者をはじめ、一般参加者の多数のご来場をお待ちしております。

林野庁 九州森林管理局 西表森林環境保全ふれあいセンター

〒907-0004 石垣市字登野城55-4 石垣地方合同庁舎内

TEL:0980-88-0747 FAX:0980-83-7108 URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>